

# 宗岡二中だより 8・9月号



令和6年8月29日

自ら学び考える生徒

学校教育目標：心豊かな優しい生徒

明るく元気な生徒

## 「過ぎたるは猶（なお）及ばざるがごとし」

校長 伊藤大輔

どんなことにも、ちょうどいい加減があります。  
のんびりする時間は本当に大切です。日常の慌ただしさから距離を置くことで健全な心身を取り戻すことができます。夏休みに、のんびりと過ごす時間をもつことはできたでしょうか。ところが、のんびりし過ぎると、のんびりする事のありがたみが薄れます。かえって疲れたり、気力が失せたりすることすらあります。休息を例に引きましたが、他にも当てはまることがありそうです。例えば運動。動き過ぎは体を壊します。運動不足も体を壊します。例えば食事。食べ過ぎると気分が悪くなります。食べないでいても気分が悪くなります。例えば睡眠。眠り過ぎは体に応えます。睡眠不足も体に応えます。

例えば勉強。受験対策として、志望校の過去問に繰り返し取り組む人がいます。私もやりました。そのこと自体には意味があります。しかし中には正解を一字一句間違えずに一心不乱に覚えようとする人がいます。残念ながら、これはやり過ぎです。完璧に覚えることに自分を追い込んでしまうと、柔軟に感じる力が働かなくなるからです。知識は「あればあるほどいい」と思いがちなのですが実は詰め込みすぎると、ものを考えることの邪魔をします。とは言え、勉強をやらなければ、学力は付きません。

勇気はどうでしょう。古代ギリシアの哲学者でアリストテレスという人がいます。この人は「勇気とは無鉄砲と臆病のちょうど中間のことである。両極端の悪い例と等しく距離をおくことを最善とする」と考えました。臆病すぎると、勇敢な行動はとれない。かといって無謀なのも勇気とは違う。「何も怖くない」と

自慢げに言う人がいたら、その人は勇敢ではなく、ただ無謀なだけです。勇者とは、少なくともどこかで不安を抱えつつ、それを克服して行動する人のことです。アリストテレスの考える等しい距離を保つことは決して簡単なことではありません。そして、簡単なことではないからこそ、人間が人間らしく生きるためには、その難しい調整に挑む必要があるのです。

始業式で紹介したアンパンマンは、この難業に挑み続ける真のヒーローだと私は思います。作者のやなせたかしさんは、「アンパンマンは、ばいきんまんをやっつけるだけで、なぜ捕まえないのですか？」との問いに対し、「アンパンマンとばいきんまんは、光と影、陽と陰、あるいはプラスとマイナスのような関係です」と答え、また、「アンパンマンは、なぜすぐにばいきんまんをアンパンチでやっつけられないのですか？」という問いには、「ばいきんまんの悪事をとめるのが目的で、やっつけることが目的ではないからです」と答えています。アンパンマンとばいきんまんの闘いは、誰しもが抱く“良い心”と“悪い心”の象徴です。常に“悪い心”を自身の“アンパンチ”で制御しながらバランスを保っている人間そのものを表しているのです。

さて今号の標題は孔子の言葉です。「偏（かたよ）らず、過不足なく調和がとれていること」と解説されます。一人一人のありかたにおいても、仲間との関係においても「過ぎていないか／足りていないか」の感度を高めたいものです。この「さじ加減」を意識することによって、力を育み、力を発揮し、力を合わせて長くも実り多い2学期を創っていきましょう。